

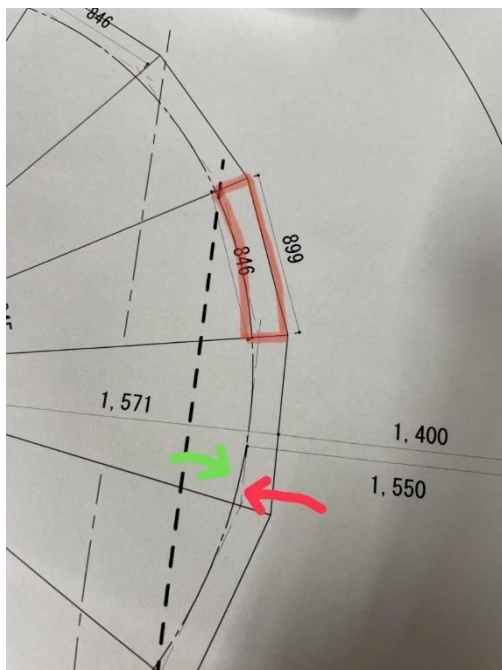
地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	穎娃おこそ会
役職	
氏名	佐藤利江子
着任日	令和5年6月1日

活動月	令和5年12月（着任7ヶ月）
主な活動	1.工務店にて実務研修 2.講演会聴講

1. 工務店にて実務研修

今月は現在番所鼻公園に建設中のカフェの型枠製作作業に参加させていただきました。このカフェはコンクリートで曲線を出さなければならない部分があり、工務店の方も普段は木造建築を中心に行っているため、初めてのことが多く作業が難航していました。私もコンクリートの型枠を作ることは初めてな上に曲線ということで理解が難しく手探り状態で何度もやり直しで、イメージがはっきりしないものを作るのはとても難しいと感じました。大工さんたちは型枠の工程が分かっているので私の10分の1以上のスピードで進めていきます。誰かと何かを共有する場合は相手がイメージできるように伝えること、やり直しがないようにすることがモチベーションの維持に必要だと痛感しました。図面を書くよりも実際にモノを作ることは本当に難しいと感じると共に、実際に作りやすい図面を書くことも重要だと感じました。



2. 講演会聴講

長野県にてリビルディングセンタージャパンという古材と古道具を販売する建築建材のリサイクルショップを営んでいるかたの講演会を聴講しました。依頼のあった家屋や工場の解体や、お片づけの現場に、行き場を失ってしまったものを引き取り、販売するという取り組みをされています。HPには「家の住み継ぎかたを、アップデートする。モノをつくるなかで生まれる「もったいない」を価値化・可視化していく。そうしていくことで、捨てられていくものや忘れられていく文化を見つめ直し、再び誰かの生活を豊かにする仕組みをつくっていきたいと思います。」とのことを書いてあり、非常に共感できる考え方でした。長野の諏訪という場所なので都心から車で買い物に来られる距離であり、同じようにはできないかもしれませんが、考え方や仕組みづくり方法など学ぶものはい多いと感じました。

空き家の活用として、そのままリノベーションして利用するだけでなく、解体後、他の形で誰かの役に立てるというのも、家の持ち主としては気持ちのいいことのように感じます。顕娃においてもすでに家としてはなかなか使えないものも多く解体を迫られるような物件も多くみられます。解体に踏み切れない持ち主の方にとって、「廃材の有効利用」という前向きな選択肢は空き家問題の解決の一つの糸口になるのではと考えられます。

